

新たな劇場の基本構想（素案）概要

1.市民会館の現状と課題
2.本市および周辺地域における類似施設の状況
3.劇場を取り巻く情勢
4.新たな劇場の方向性

（１）現状の課題点と本市が目指す方向

現市民会館が抱える諸課題を克服するとともに、全市的な文化振興を促進するためには、市民会館の整備を単なる老朽化した建物の改築（建て替え）にとらえず、今後の市民会館に求められる役割や位置づけを再考し、「新たな劇場」としてその整備方針等を検討する必要があります。

○市民の文化的な誇りを呼び起こし、都市魅力を向上させる劇場の整備

○劇場不足を解消するためのホールの増設

○機能性に配慮した施設構造（ユニバーサルデザインの導入、将来の需要変化にも対応可能な拡張性、多様なニーズに対応可能な設備）

○魅力的な公演・気軽に楽しめる公演等、文化芸術に親しめる環境の充実

○多様な価値観に応える、市民の活躍・交流の場の創出

○本市内の施設同士の連携体制の構築

5.基本理念	
（１）基本理念	
■ミッション	文化芸術の裾野拡大（劇場文化の浸透） 文化芸術に対する市民の興味を喚起し、これまで劇場に関心がなかった市民にもその魅力を届け、劇場文化を市内に幅広く浸透させる
■位置づけ	人々が楽しみ、引き込まれ、心打たれる文化の香り高い名古屋の心つながる象徴拠点 ①本市の文化芸術を象徴するランドマークとなり、国内外から多くの人々が訪れるデスティネーションを目指す ②実演者、鑑賞者だけでなく市民にとって「名古屋の誇り」となる ③「文化芸術が活きるまち名古屋」の中核施設として市内の文化振興をけん引
■役割	ポップからハイカルチャーまでより多くの人々が興味を引き起こされる公演の上演施設 ①多様な演目に触れる機会を提供し、より多くの人々が劇場に訪れる「きっかけ」を創出することで、文化芸術への興味を誘発 ②魅力ある事業を主体的に展開
	市民の多様な文化活動を促進する、名古屋発/初文化の中核となる施設 ①文化芸術の創造活動拠点として、名古屋ならではの文化芸術を発信 ②文化芸術の普及・育成拠点として、充実したサポート体制を構築し、文化力を底上げ ③文化芸術活動の活性化を図り、その集大成を披露する「晴れ舞台」として存在感を発揮
	市民が気軽に訪れる、人と文化の交流結節拠点～感動と出会い、まちと繋がる、開かれた劇場～ ①「開かれた劇場」としてまち全体に文化芸術による賑わいを醸成 ②「いつでも、誰でも、何かを経験できる」文化芸術が身近に感じられる魅力的な空間や機会を提供 ③市民が日常的に訪れる、居心地の良い空間（居場所）を創出

（２）市内文化施設との有機的連携

新たな劇場を中核施設に据え、他の文化施設と有機的に連携しながら、文化芸術の裾野拡大を目指します。

6.管理運営の考え方

（１）自主事業の考え方

①自主事業の基本的な考え方および自主事業区分

Ⅰ.幅広い世代の興味を誘発する多様な事業の展開	鑑賞事業		
	A	バラエティーに富んだ演目で幅広い世代のニーズに応える公演を実施	“文化芸術の裾野拡大”コンテンツ
	B	国内外の他都市との共同・ツアー連携事業を推進し鑑賞機会を拡充	他都市との共同・連携事業
C	気軽に文化芸術を体感できるオンライン配信を積極展開	メディア・動画配信サービス	

Ⅱ.文化芸術活動における共創を促進	創造・活動事業		
	A	新たな劇場を中核とした、アーティスト同士の交流促進/施設間の連携促進	文化芸術コーディネート事業
	B	新進アーティストやエンジニア等と連携し、先端芸術表現の創作を促進	先端芸術表現創造ラボ
C	障害の有無や年齢、国籍等を問わない、多様な価値観をもつ表現活動を促進	ソーシャルアート事業	

Ⅲ.文化力を底上げする仕組みの構築	普及・育成事業		
	A	市内文化施設と連携した、次世代の実演家・文化芸術を支える人材の育成	次世代劇場人育成事業
	B	子どもからシニアまで老若男女を対象とした新たな体験・挑戦の場を提供	文化活動サポート事業
C	オンラインを活用した、世代や時間、場所を問わず学べる機会の提供	公開シアタークラス	

Ⅳ.開かれた劇場としての交流機会の創出	交流・まちづくり事業		
	A	金山エリアの活性化、回遊性を生み出すフェスティバル等の開催	エリアコラボレーション事業
	B	エントランス、屋外広場や近隣施設での気軽に立ち寄れるイベント等の開催	まちかどイベント事業
C	金山独自のカルチャーを活かした新たなデスティネーションの構築	金山カルチャー活性化事業	

②今後の検討方針

具体的な内容については、貸館事業方針との相乗効果を生み出せるよう、引き続き検討を進めます。また、自主事業は貸館事業との予約枠とのバランスを考慮して実施することを検討します。

（２）貸館事業の考え方

①貸館事業（施設利用サービス事業）の基本的な考え方

Ⅰ.文化芸術の裾野拡大につながる利用の拡大	・設置目的の達成に資する柔軟な利用規則の検討 ・人々の興味を誘発する、話題性のある演目の積極的な利用促進
Ⅱ.アーティストの多様な創造活動の受け皿	・先駆的/実験的な試みを伴う創造活動に対する施設利用の積極的促進 ・多様な演出に対応する、柔軟なサービスの提供
Ⅲ.地域文化芸術団体等への積極的なサポート	・市民に寄り添った居心地の良いサービスの提供 ・劇場の特性を踏まえたより良い利用方法の提案

②今後の検討方針

- a)共催事業（戦略的貸館）のあり方について
- ・共催を活用した積極的な公演誘致の方針
- b)利用規則の基本的な考え方
- ・開館時間、休館日など施設全体の運営規則に関する基本的な考え方、方向性
- c)貸出規則の基本的な考え方
- ・貸出時間、使用料、加算・減算・減免など、ホールやその他施設等の貸出規則に関する基本的な考え方、方向性
- d)市内施設の連携体制について
- ・市内施設一体的な条例のあり方
 - ・市内県有施設との相乗効果を生み出す運用 等

(3) 運営組織の考え方

①運営組織の基本的な考え方

I. 全市的な 事業運営体制の構築	・有機的連携の達成に資する、安定して継続的に事業を提供し続けることができる体制の構築 ・市内文化施設のみならず、他都市施設・地域の企業・団体等とも連携できる体制の構築
II. 専門性を持った 人材の配置	・新たな劇場の理念を実現するための事業を先導できる高い専門性をもった人材の配置 ・文化芸術活動の活性化や水準向上を図るため、地域文化芸術団体等への支援を実施できる専門人材の配置

②今後の検討方針

- a)運営主体の体制
- ・本市の政策の実現に向けた中長期的な体制の検討
 - ・仮に運営主体が複数になる場合は、その役割分担・体制の精査
 - ・設置者（本市）と運営主体の機能・役割分担および主体的な協働体制の検討
- b)専門家の配置体制・役割
- ・各種専門家（事業（自主・貸館）、舞台技術、広報宣伝、経営等）の体制・役割
 - ・設置される施設の利用主体（プロユース・市民利用）へのサービス水準の最大化を念頭に置いた人員配置
- c)組織図・配置人数の検討
- 等

(4) 広報宣伝の考え方

①広報宣伝の基本的な考え方

I. 全市的プラットフォームによる情報集約	・継続性・公共性のあるワンストップの全市的情報プラットフォームの構築 ・名古屋圏域のイベント情報やアーティスト情報、施設概要等の情報を横断的に集約し発信できる仕組みの構築
II. 最新技術の導入による柔軟な広報戦略	・最新技術を駆使し、高齢者が使いやすい予約システムや、若者が気軽に購入できるチケットシステム等を導入 ・AI技術によるビッグデータ分析等の手法により、特定のターゲット層へ向けた告知や、需要に応じたストリートビジョン広告等を積極的に展開
III. 多種多様なメディアの活用	・文化芸術に関心の薄い方々にもイベント情報が届くよう、アプリやSNSなどのネットワークを活用した広報を実施 ・地元テレビ局や動画配信サービスと連携し、これまでにない「劇場×映像」の新しい告知方法を開発し発信

②今後の検討方針

今後の文化芸術における広告媒体はインターネットが主流であり、動画配信サービスやSNS等との連携が必要不可欠と考えられます。その一方で、子どもや高齢者にとって安心安全で分かりやすい告知方法も求められます。また、他の文化施設との有機的連携構築のために、全市的な情報の集約・発信方法も必要になると考えられます。

- a)広報担当者の組織体制
b) I T等の最新技術活用
c)具体的な広報媒体と手法 等

（５）評価制度の考え方

- ・新たな劇場の設置目的達成のためには、事業評価等による施設の運営状況の確認・改善や、事業方針の検討・見直しを定期的に行う必要があります。
- ・他都市事例等も参考に、第三者評価機関の設置検討や、「名古屋版アーツカウンシル」による評価可能性の検討等、評価を行う体制や評価基準などを今後幅広く検討していきます。

7.施設の考え方

(1) 施設整備の基本的な考え方

①開かれた劇場

- 「いつでも、誰でも、何かを経験できる」総合的な文化芸術交流拠点として、誰もが気軽に訪れる開かれた劇場を目指します。

②ランダムマーク性

- 本市の文化芸術を象徴する施設として、ランドマークに相応しい外観を備えることにより、国内外から多くの人々が訪れる、魅力的な「デスティネーション」を目指します。

③機能性に優れた劇場

- 本市の文化芸術を象徴する施設として、従来の劇場機能を担保することはもちろん、最新機能・設備を導入することで、質の高い公演や先駆的な演目に対応できる劇場を目指します。
- ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい劇場を目指します。

④アプローチ環境（周辺市街地含む）

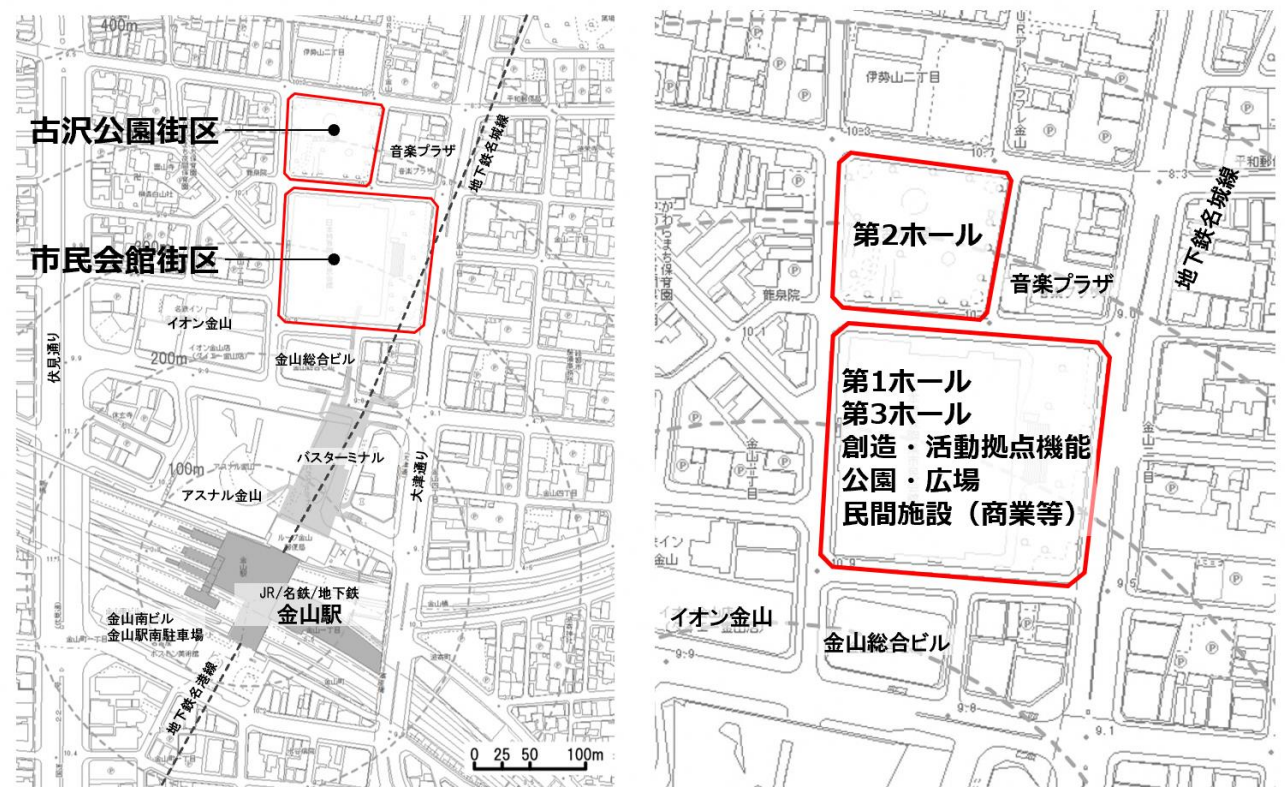
- 劇場周辺市街地との一体的なまちづくりの観点から、まちの回遊性が促進され、まちの魅力を増幅させるアプローチ環境を検討します。

(2) 施設構成

機能	基本コンセプト	諸室名称	諸室用途概要
ホール機能	聴くホール	第1ホール	・客席数2,000～2,200席を想定 ・音楽を中心とした多様なジャンルの商業公演に利用
	観る・魅せるホール	第2ホール	・客席数1300～1500席を想定 ・演劇・舞踊から伝統芸能まで魅力のある公演や市民の文化芸術活動の発表
	体感するホール	第3ホール	・客席数800～900席を想定 ・収容人数は1,700～1,800名を想定 ・演劇や軽音楽の公演、多様なジャンルの新演出に対応
創造・活動拠点機能	あらゆる人々の交流結節拠点	スタジオ	・音楽・演劇・ダンス等練習の場 ・各ホールのリハーサル室を兼ねる
		練習室	音楽・演劇・ダンス等練習の場
会議室		各種会議や研修の場、他多用途に利用	
交流機能		共通ロビー・イベントスペース	・施設全体の共通ロビー空間 ・鑑賞目的のない人でも気軽に訪れる開かれた場 ・日常的にイベントを実施し、施設に賑わいをもたらす場
		カフェ等	施設併設のカフェやレストラン、飲食店
		情報スペース	文化芸術に関する情報を一元的に集約したスペース
他	管理機能（施設事務室、防災センター、守衛室 等）、駐車場 等		

(3) 敷地における整備方針

市民会館街区及び古沢公園街区を活用し、ホール機能、創造・活動拠点機能及び交流機能、公園・広場、民間施設（商業）の整備を検討します。



8.整備事業概要の検討

(1) 事業規模

新たな劇場の施設構成や配置等の検討に併せ、以下のような劇場関連部分の概算事業費について今後検討のうえ、算定する予定です。

- ①施設整備費
- ②運営費
- ③支出総額

事業運営費においては、各種助成金のほか、友の会制度や企業メセナとの連携等、本市内企業との提携についても検討を行い、市の財政負担の軽減を図る必要があります。

(2) 期待できる経済波及効果

事業規模の検討結果等を踏まえ、劇場による以下の項目について、経済波及効果を定量的あるいは定性的に示すための検討を行います。

- ①建設による効果
- ②運営による効果
- ③地域活性化による効果

(3) 事業手法

官民連携手法の活用については、想定される手法を分析し、導入適正を検討します。
※官民連携手法の例：PFI・BTO方式、DBO方式、建物賃貸借方式（事業用定期借地権）

9.スケジュール（案）